

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
715	平城こども園

715平城こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標達成への手立てを明確にし、実践に努める。 教育ビジョン及び全体の計画の作成をし、共通理解をする。 保護者アンケートや学校評議員などの評価から教育活動を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標を目指し全体の計画を作成し、3年保育の発達の姿を捉えた個々に応じた教育・保育の充実に努めた。 便りや学級懇談会などで、園の教育目標や取り組みを知らせ共通理解を図った。また、H.Pや「でいあシート」等を活用し子どもの姿を発信していくことで、園理解につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標が達成できるように意識しながら、園生活や遊び、行事等に取り組むことができた。 保護者アンケートや評議員の意見を次年度に反映させていくことで、園教育・保育に理解と支持を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に沿ったねらいをもち、見直しをもった教育・保育が計画されているか見直し、次年度につなげていく。 保護者アンケートや学校評議員の方々からの意見を受け止め、改善策を話し合い、保育の質の向上に努める。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の指導計画を各学年ごとに見直し、縦のつながりも意識して立案する。 3歳から5歳の発達段階を考慮し、子どもが生き生きと主体的に遊びや活動に取り組める環境の工夫や援助のあり方を探る。 互いの実践について積極的に意見交換を行う。 育てたい幼児の姿を明確にし、指導方法の工夫・改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに指導計画を振り返り、一人一人の興味関心や思いに寄り添いながら進めていた。 研究主題に基づき、しなやかな心と体を育む環境構成や援助の在り方を探ることで子ども理解につながり、保育内容や指導計画へと活かせることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画をもとに一人一人に応じた働きかけや、育ちに繋がる援助を心がけながら保育を進めることができた。 発達の過程をしっかりと捉え個々の幼児がのびのびと自己発揮できる環境構成や援助の在り方に焦点を当てて取り組むようにしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の子どもの姿と指導計画の内容にズレはないか、見直し修正しながら立案していく。 保育の振り返りの時間や場を確保し、保育の質、指導力向上につながるようにしていきたい。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に取り組めるように、各学年の発達を考慮して計画を立てる。 前年度の反省・評価から内容の精選に努め、遊びと行事を繋げた豊かな経験ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園行事が幼児にとってどのような学びにつながるのか、何が育つのかを意識しながら行事の立案をし、実践することができた。 各行事の担当者が核として、共通理解しながら取り組みを進めることができた。 様々な感染症の感染状況を踏まえながらの計画案を立てるようにしてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況を踏まえながら実施方法や内容、参加体制を考え、保護者理解を得て実施することができた。 みんなで力を合わせて作り上げる姿やこれまでの取り組み、頑張ってきたことを取り入れていくことで保護者から子どもの成長を喜ぶ声があがっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の願いや就労状況を考慮し、参加しやすいような行事の持ち方や内容であったか、検討していく 子どもの発達に応じた内容であったか、次年度につなげる。 コロナ前に全て戻すのではなく、行事を見直しながら、楽しめる内容を工夫していく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を教職員間で共通理解する。 自分を大切にすると共に、友達への思いやりの気持ちが育つような保育内容を立案し取り組みを進める。 幼児の実態に応じた教材を研究し指導方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合い、協力し合える人間関係の基礎作りができた。また、一人一人が自分の願いや思いを出し合うことで、相手の思いにも気づくことができるようになってきている。 命の大切さや相手を思う気持ちを育む絵本や教材を取り入れている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の良さを引き出し、認め合えるクラス作りを行っている。 「人権擁護のためのセルフチェックシート」を活用し、職員自身が子どもの人権を尊重する保育を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権を尊重しているか自らの保育を振り返りながら、職員の人権意識を高めていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡、相談、確認を綿密に行う。 個々の幼児や保護者の思いに寄り添う。 保護者の思いを十分に聞く。 個人情報に配慮しながら連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で常に子どもの姿や保護者の思いを報告し合い、園全体で把握しかかわってきた。職員の思いや考えを出し合い子ども理解を深めていく事で、援助や働きかけを見出すことができた。 降園時に、保護者に園での様子を伝える等、連携に努めてきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園全体の問題として、職員全体に提示し考えていけるようにした。 保護者の思いに寄り添い、不安に思っていることなど話しやすい関係性や場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の様子や言動のサインを全職員で見逃すことなく捉えるようにし、変化に応じて迅速に対応できるように常に心がける必要がある。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> 対処方針や指導計画が明確である 日頃より実態把握・早期発見に努めている 各学級の状況を園組織として共有できている 保護者や地域と連携できている 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 担任、預かり保育担当者、子育て支援担当者、特別支援教育支援員が連携し、園児の様子を日々共有、子どもの変化に気づき早期発見できるようにした。 気になる様子や変化などがあれば記録を取り、すぐに報告する体制づくりに努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡、相談を密にし、迅速に対応ができるようにしている。 様々な角度から見た子どもの姿や保護者の様子等の情報交換を行い、気になる実態については慎重に関連機関と連携を取りながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との信頼関係を基盤に園児の様子を丁寧に見守り把握する。 園児の実態を職員間で共有し、より良い手立てや方策を考えながら援助、かかわりを行っていく。
(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に全職員で特別支援教育の重要性を認識し、適切な支援を行うために園内の研修体制を強化する。 個別の指導計画を立て、一人一人の課題を明らかにし、具体的な指導方法を探る。 家庭との連携を密にし、同じ方向で適切な支援が出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもセンターや教育相談課などの専門機関による指導を受け、個々に応じた指導ができるように視覚支援等取り入れながらかかわっている。 コーディネーター研修で得たことを職員全体で共有できるように伝え合い、相互理解を図りながら適切な指導に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別的配慮を行いながら、支援が必要な園児を中心としたクラスづくりを行ってきた。 保護者、関係機関と連携を取りながら、一人一人に合った特別支援教育を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の課題を明らかにして、個々に応じたかかわりや指導方法を探る。 一人一人の子どもが認め合い、自己発揮できる集団の中での子どもの育ちを支えていく。 	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容						
	③ 指導方法の工夫改善						
	④ 家庭との連携						
	⑤ 関係機関との連携						

(令和6年度)
自己評価書

園番号	園名
715	平城こども園

715平城こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育ビジョンや園経営の方針を示し、職員一人一人の指導力が最大限に発揮できるようにする。 年間の職員会議、研修の充実を図る。 職員の園務分掌の適正化を行う。 職員が協力・協働して、課題解決に取り組める職場環境を作る。 園評価を実施し、次年度に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、本年度の取組について、共通理解が図れた。 日々の朝礼、終礼による連絡、報告、相談をすることで、職員全体で共通理解し意志の疎通を図ることができた。 個々との面談を必要に応じて実施し、信頼関係の構築、風通しの良い職場環境作りに努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で子どもの様子を伝え合い、教育目標や研究主題を意識しながら保育内容や環境設定を行っている。 職員が協力し合い、助け合いながら問題解決や克服に向けて取り組んでいる。 学校関係者評価において、園児の姿や、職員間の連携、職場の雰囲気の良い評価をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談をしっかりと行い職員間の信頼関係を築く。特にクラス担任と預り保育担当者との連携が強化できるよう工夫する。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修などにおいて、環境構成や援助の在り方などを学び合い、保育実践に活かせるようにする。 園外研修、リモート研修等に積極的に参加し、学んだことを伝え合い保育の質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品展や参観などを見せ合うことで他の保育者の保育の進め方などを具体的に学ぶことができた。 園内研究会などでは、環境構成の在り方や保育者の援助、指導案の書き方等を学ぶ機会となった。 リモート研修等、学びの場に参加することで、専門的知識の習得、多様な意見や方法を知り実践へとつなげている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研等で他クラスの保育を見合うことで、保育のヒントを得たり、自分の保育を振り返ったりする機会となり、実践につなげることができた。 リモート研修、自己研修等に参加し、主体的に学び、報告し合い自分のものとして実践に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の研修を報告する時間や場が確保しにくい。学びを共有できるように、今後も時間の確保に努める。 保育の質の向上に向けて、職員間で活発な意見を交換し合い、計画的・継続的に学び合える研修体制を整える。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
③ 園外の研修への積極的参加							
④ 園外研修内容の共有							
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全計画、避難訓練等の計画を立案し、迅速かつ適切な対応ができるよう、職員との共通理解を図る。 月1回、様々な場面を想定して避難訓練を実施する。 安全管理マニュアルに基づき、園児の安全対策を十分に行い、生命と健康を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時、園児の安全確保のための適切な職員の体制や対処の仕方について話し合いを重ねた。 園・保護者・地域・行政との連携を密にもったことで、園児や保護者が安心して生活できるように努めた。 様々なケースでの避難訓練を通して、適切な避難の仕方を身につけられるように取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園児の安全確保のための職員の意識向上と動きについての確認を行った。 毎月の避難訓練を通して、自分の身を守るために適切な避難の仕方や、必要な安全・自己管理について分かりやすく知らせてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体で危機管理意識を高め、安全対策を強化し共有を図る。 今後も地域や家庭と連携し、取り組みに参加してもらう機会を持ち啓発していく。 	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 日々の健康観察や情緒の安定に努め、全職員で情報を共有しながら適切な対応が出来るようにする。 家庭との連携を大切にし、健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くよう指導に努める。 園医や関係機関との連携を密にとるようにし、迅速かつ適切な対応をする。 アレルギー対応を徹底し、安心・安全な給食提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導や健康管理に努め、園児が自分の身体や健康について意識しながら必要な習慣が身に付くようにしてきた。 様々な感染症の感染状況を踏まえながら、手洗い・うがい、換気、消毒などの予防対策に努めた。 保育総務課やアイコーメディカルと連携し、衛生管理、アレルギー対応に取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や園児に様々な感染症などの知識や予防の意識を持てるように啓発等を行っている。 園医や薬剤師、関係機関と連携を取りながら、感染症などの対応を適切に行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症やアレルギーへの正しい知識を身に付け、迅速に対応できるように研修を積む。 今後も関係機関と協力して感染症対策や食の安全など、園・家庭・地域・行政との連絡を密にし健康管理に努める。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食の衛生管理						
	⑥ 関係機関との連携						
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域や教育機関への会合に参加し、園の取り組みや様子を発信する。 地域力を活かした体験活動などの教育・保育を進める。 保護者・地域との協力体制を密にする。 学校評議員会を、年3回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流を大切にし、園児の育ちにつながる取組を精選し行ってきたことで、地域との結びつきも深まり、豊かな体験となった。 園だより等を届けたり、地域の会合で園の様子、情報を伝えたりすることで、園理解に繋げてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画や活動内容を振り返り、園児にとって必要な経験や活動となるような内容を検討、精選しながら進めることができた。 園の取り組みや保育内容、園児の様子など発信していく中で、保護者アンケートや地域の方々から高評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 更に、こども園としての理解が得られるよう、ホームページの随時更新やドキュメント・「でいあシート」の掲示を行う。 小中学校と連携を図りながら、地域力を活かした豊かな体験活動が継続できるようにする。 	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ P T A ・保護者会の活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検や管理を行う。 園内における危険箇所や修理箇所を整備し、安全管理の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員で定期的に安全点検を行い、早期に異常を発見でき、補修や整備を行うことができた。また、危機管理意識をもって取り組めるようになってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園児、保護者にとって気持ちよく安心・安全に過ごせる環境整備を行ってきたことで、肯定的な意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性を確保するために定期的に点検を実施する。 日々の保育の中で安心・安全な環境になっているか見直し改善していく。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 情報管理について職員全員で共通理解をし、体制を強化する。 個人情報の取り扱いには十分留意し、管理と保護は徹底して行う。 情報管理等の研修に参加し、職員一人一人の危機管理への意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 公文書作成については管理職が確認し、適切な保管を行った。園児名簿や生活調査票、デジタルカメラの保管などは、施錠できるロッカーに保管し管理簿の記入やファイルの暗号化に努めた。 個人情報の漏洩、記録媒体等の紛失が起らないように細心の注意を払うことを徹底してきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報漏洩対策、記録媒体の持ち出し、紛失について職員の意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が常に危機意識をもって職務を遂行していけるように、徹底していく必要がある。 P T A (愛児会) とも連携し、個人情報の取り扱いの徹底を図る。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						